



## 代表取締役 深見 優輔

愛知県豊田市出身。「深見溶接工業」を経営する父親の背中を見て育つ。大学4年生の時、父親が脳梗塞で倒れたことから家業に入った。現場で経験を積むと共に経営者としても才腕を発揮し、社を守り立てている。

### COMPANY PROFILE

## 株式会社 深見溶接工業

愛知県豊田市近岡町馬場瀬 38

製缶、並びにコンベアの点検・メンテナンス工事を中心に、高度な技術力で裏打ちされた確かな仕事ぶりで信頼を集める『深見溶接工業』。創業者である父親の代から地域密着の姿勢で業歴を重ね、地域貢献にも尽力してきた。本日はそんな同社を俳優の村野武範氏が訪問。先達の急病から家業を担うこととなり、二代目として力強く社を牽引してきた深見社長に、その歩みを中心に様々なお話を伺った。

#### 思いがけず家業に入り 懸命に技術、知識を磨く

—早速ですが、深見社長の歩みからお聞かせいただけますか。

愛知県豊田市出身で、この『深見溶接工業』を営む父の背中を見て育ちました。子どものころはスケートを嗜んでいて、中学校、高校のころはバスケットボールに打ち込むなど、身体を動かすのが好きでした。その後、大学に進学して勉学に励んでいたところ、突然父が倒れてしまいました。父は仕事を続けることが難しくなり、お客様はもちろん、従業員も3～4名いましたのでなんとか会社を続けていかなければということで、急遽私が入社することになったのです。

—思いもよらず家業に入ることになっ

たのです。もとより後継の意思はお持ちだったのでしょうか。

いえ、正直なところ、家業に入ることは全く考えていませんでした。高校生のころにアルバイトで仕事をさせてもらったことはありますが、それはあくまでも小遣い稼ぎ程度のことです。実際に自分が家業に携わることなど想像もしていませんでした。父からも後を継げと言われては一度もありませんでした。後継に関しては本当に何も考えていませんでした。

—結果的に家業を継がれることになったのは、運命だったのかもしれない。いざ家業に入られていかがでしたか。

右も左も分からない状態で、本音を言えば当初は嫌でしょうがなかったですね。私が入ったころの従業員さんはベテ



ランばかりで、私もよく知っている顔で、皆さんに教えてもらいながら仕事を覚えていきました。当時は、いずれ会社を継いでいくという気持ちも覚悟もできていなくて、とにかく日々の仕事をこなしていくのに必死でした。幸いにも、母が経理を担ってくれていたため、現場仕事に集中できたのはありがたかったです。—苦勞を糧に、懸命に努力を重ねてこられたことが伝わってきます。

一通り仕事を覚え、代表職としても経験を重ね少しは落ち着いてきたかなと思っていた矢先に、リーマン・ショックが起きて非常に厳しい状況に陥りました。ここ愛知県は製造業を手掛ける企業が多い地域で、リーマン・ショックの痛手に頭を悩ます経営者は多かったように思います。当社もご多分に漏れず苦しい

# 周囲への感謝と恩義を忘れずに 地域社会と共に歩みを進めていく

### Column

大学生時代、会社の危機に際して家業に入ることを決意した深見社長。社長にとって創業者である父親の存在は大きく、父親に対する想いが仕事に臨む原動力にもなった。今も社長の父親は健在で車椅子生活ではあるが元気だという。「父が仕事を引退して私が経営を担っていたころ、自分が頑張らなければと思いつめていた時がありまして。そんな時、父は『辞めなければ辞めても構わないよ』と言ってきて、それで随分気が楽になりました。自分の人生を振り返った時に、ターニングポイントには常に父の姿がありますね」と社長は語る。社長が父親を敬愛する一方で、父親も何よりも子の身体を大事に思う——父子の絆の強さこそが、『深見溶接工業』の強さでもあるのだろう。



台所事情となり、月の売上がわずか5万という時もありました。そんな時でも従業員と共にしっかりと前を向いて歯を食いしばって質の高い仕事を納め、信頼だけは損ねないように努力してきました。そうしてなんとか苦境を乗り越えて、その後も浮き沈みはありますが、なんとか頑張っているところです。

—不況の波に煽られても淘汰されることなく生き残ってこられたのは、御社にそれだけ技術力と信頼があったからでしょうか。

#### 先達と肩を並べられるように 地域の活性化にも力を注ぐ

—思いがけず家業を担うこととなり、苦しい時も多々あった中で、折れずに続けてこられた原動力は何だったのでしょうか。

うか。少なからず、父への想いがあったからでしょうか。父が1代で懸命に築き上げてきた会社を潰したくないという想い、自分を育ててもらったことに対する恩義、格好つけて言えば、そうした想いが自分を奮い立たせてくれたように思います。また、実際に会社を継いでから、父の偉大さを身に感じるようになりました。父は地域で顔が広く、たとえば取引先などで名前を言えば「深見さんところの息子さんか」と言ってくれ、これも多く、父の人脈の広さや人望の深さに驚くこともありましたね。

—今は立派になった社長のことを、お父様は誇らしく思っているのでしょうか。では、お話も尽きませんが、最後に今後の抱負をお聞かせ下さい。—昨今は仕事以外に、青年会議所などで

の地域活動にも積極的に参加させていただいています。これまで私は、多くの人に支えられ、助けられてきましたから、そうした活動を通じて、微力ながらも地域に貢献していきたいと思っています。父と肩を並べるのはまだ遠いですが、地域活動に尽力し、人のために尽くせる人間でありたいと思っています。そのためにも、まだまだ精進あるのみ。毎日を一生懸命頑張っていきたいですね。

—益々のご活躍を期待しています！  
(取材/2018年10月)

### After the Interview 村野 武範

「経営者でありながら、今も現場に出て設計や製図、お客様の打ち合わせなども対応されているという深見社長。現職にあぐらをかかず、懸命に現場を駆け回る誠実な社長だからこそ、従業員の皆様をはじめ、お客様や取引先様など、多くの方から信頼を寄せられるのでしょうね。これからもその真っ直ぐな姿勢で会社を未来へと紡いでいって下さい！」

